溝上慎一の教育論（動画チャンネル） No276

（新著の紹介）

アメリカ高等教育の発展・課題を知りたければ『ミネルバ大学の設計書』松下佳代先生（京都大学教育学研究科教授）

溝上　慎一　　Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

http://smizok.net/
E-mail　mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
＊詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。
※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

（ご紹介）

松下佳代
まつした　かよ

京都大学大学院教育学研究科 教授

京都大学博士（教育学）。群馬大学教育学部助教授、
京都大学高等教育研究開発推進センター 教授を経て、
2022年10月より現職

教育方法学（特に、 能力論、学習論、評価論）、大学教育学
大学や中学校・高校をフィールドに研究と実践支援を行っています

大学教育学会会長、日本カリキュラム学会代表理事、
中央教育審議会大学分科会臨時委員、日本学術会議連携会員
など

新著のご紹介

コスリン, S. M.・ネルソン, B. (著) 松下佳代 (監訳) (2024). ミネルバ大学の設計書　東信堂

まえがき（ベン・ネルソン）

第１部　私たちは何を教え、また、なぜそれを教えるのか

１　なぜ、新しい高等教育が必要なのか
２　実践知
３　カリキュラムの根幹
４　一般教育の新たな視点
５　「多モード・コミュニケーション」と効果的コミュニケーション
６　「形式的分析」と批判的思考
７　「実証的分析」と創造的思考
８　「複雑系」と効果的インタラクション
９　専攻と専門領域に対する新しい見方

第２部　私たちはどのように教えるか
10　学習に向けてアンラーンすること
11　学習の科学―その仕組みと原則―
12　フル・アクティブラーニング
13　構造化された学習への新たなチームティーチング・アプローチ
14　授業プランに基づいて教える
15　アクティブラーニング・フォーラム
16　21世紀のアクティブラーニングに向けて授業プランを構築する
17　学生の学習を評価する

第３部　新しい教育機関を創り出す
18　新しいブランドを構築する
19　グローバル・アウトリーチ―新しいビジョンを伝える―
20　21世紀の入学者選抜プロセス
21　多面的文化変容―コミュニティベースの没入型多文化教育―
22　経験学習―キャンパスとしての都市と人的ネットワーク―
23　デザインされたグローバル・コミュニティ
24　多様性に富んだ21世紀の大学におけるメンタルヘルスサービス
25　ミネルバ専門能力開発部
26　アクレディテーション―高等教育の新しいビジョンに対する公認―
27　新たなビジネス・経営モデル

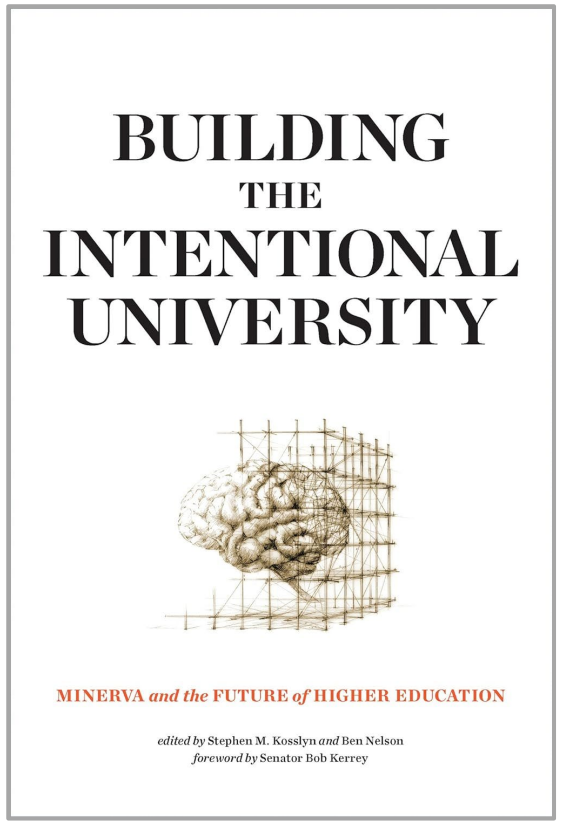
それではご覧ください

2024.6.17

書籍紹介
『ミネルバ大学の設計書』

松下　佳代
京都大学大学院教育学研究科
matsushita.kayo.7r@kyoto-u.ac.jp

まず、タイトルとカバーから



Kosslyn, S. M., & Nelson, B. (Eds.). (2017). *Building the intentional university: Minerva and the future of higher education*. Cambridge, MA: The MIT Press.

コスリン, S. M., & ネルソン, B.（編）（2024）『ミネルバ大学の設計書』（松下佳代監訳）東信堂.

編者について

スティーヴン・M・コスリン

- アメリカの心理学者、神経科学者
- メンタルイメージ、学習の科学、ビジュアル・コミュニケーションの研究で知られる
- ハーバード大学、スタンフォード大学、ミネルバ大学を経て、現在は、ファンドリーカレッジの創設者兼最高学務責任者
- ミネルバでは、創設学部長兼最高学務責任者を務め、1年次のコーナーストーン科目の構築や16の「学習の原則」の設定に貢献した

（https://psychology.fas.harvard.edu/）

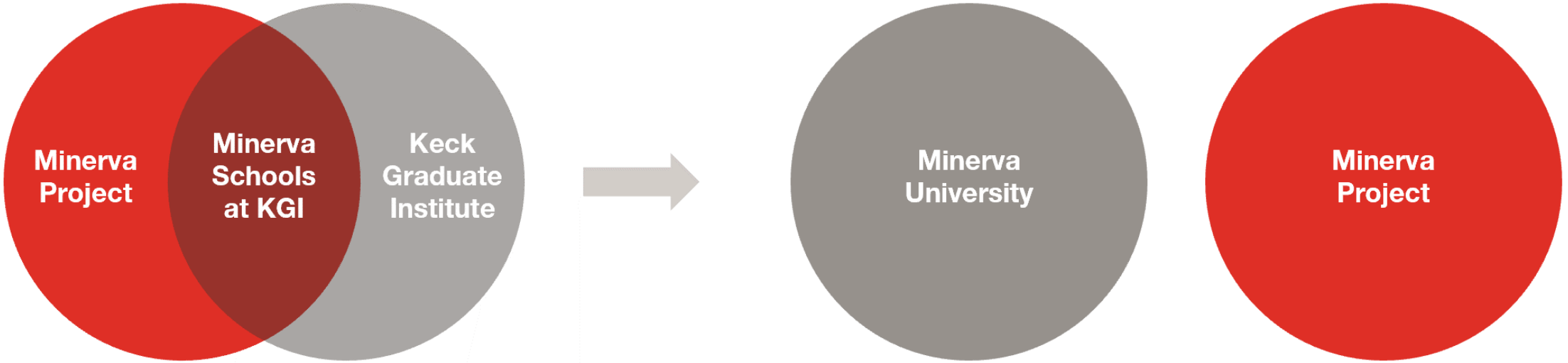
ベン・ネルソン

- アメリカの起業家、大学経営者
- ミネルバ大学の創設者、学長（現在は、Mike Mageeに交代）、およびミネルバ・プロジェクトの創設者、会長、CEO
- 2つのICT企業のCEOを務めた後、ペンシルベニア大学在学中に抱いた学士課程教育改革への夢を、ミネルバに結実させた

（https://www.minervaproject.com/）

ミネルバ大学とミネルバ・プロジェクトの関係は？

- ミネルバ大学（非営利教育機関）
  - Minerva Schools at KGI： 2012年設立、2014年開校
  - Minerva University： 2021年改称
- ミネルバ・プロジェクト（営利教育企業）
  - ミネルバ・モデルの普及、拡張



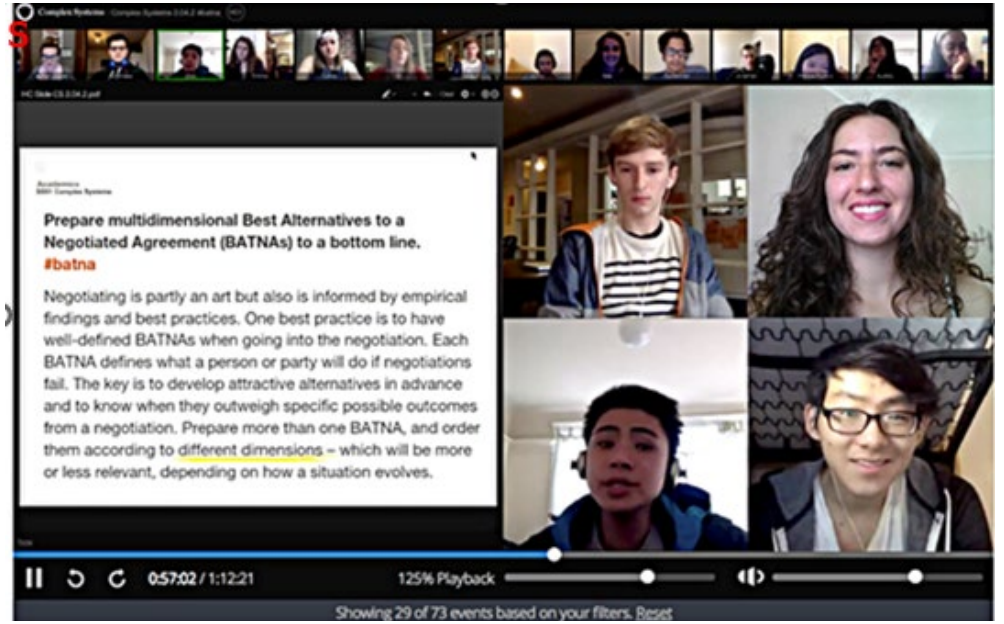
Ross, K. (2021). Transformational learning. 第28回大学教育研究フォーラム発表資料, 2022年3月16日.

ミネルバ大学について喧伝されていること

- 「世界で最もイノベーティブな大学」（World's Universities with Real Impactによる調査）
  - EdTech： すべてオンラインの「フル・アクティブラーニング」、「徹底した反転授業」
  - 「都市をキャンパスに」： 自前のキャンパスをもたず、世界7都市を回りながら学ぶ
  - 「合格率1%の世界最難関大学」： ハーバードより難しい（！）

……

- 日本進出：滞在都市を世界4都市に絞り、
  東京がその1つに



だが、それだけではない！

© 2021 - Ari Bader-Natal（https://aribadernatal.com/projects/Minerva/）

ミネルバ大学設立の意図

- アメリカの高等教育の抱える問題

①大学が、卒業後の社会や生活に対して準備できた状態にまで学生を育てられていないこと

②大学教育があまりに高額になり、ほとんどの学生が負債を抱えて卒業していること

③半数以上の学生が卒業できておらず、卒業できたとしても十分、授業に関与できていないこと

④入学者選抜において、国籍、人種、社会経済的地位、レガシー（卒業生の近親者）など、
本人の能力以外の要因で定員枠が設けられていること

ミネルバ大学は、
これらを問題を解決し、世界のリーダーを育成するために、
自分たちの設定した原理・原則にしたがって、意図的に、
ゼロから立ち上げた大学

➔その全貌がわかるのが『ミネルバ大学の設計書』

ミネルバ大学の教育（正課・正課外）のポイント

【正課】

一般教育
（1年次）

＋

専門教育
（2・3・4年次）

汎用的能力
（コア・コンピテンシー ➔HCs*）

- 批判的思考 #
- 創造的思考 #
- 効果的コミュニケーション
- 約80個
- 効果的インタラクション #

専門分野の知識・スキル

- 人文学
- コンピュータ科学
- 自然科学
- 社会科学
- ビジネス

シニア・チュートリアル
キャップストーン・プロジェクト

＋

【正課外（準正課・課外活動）】

- 世界の7都市を移動しながら、60カ国以上の学生たちと寮生活
- 正課の授業で習得したコア・コンピテンシー（その具体化としてのHCs）を、滞在都市での多様な他者（企業、行政機関、市民団体など）と協働して行う準正課活動の中で、活用し続ける＋学ぶ意味を見つける

＊**HCs**＝habits of mind & foundational concepts
（知の習慣と基本的概念）

【例】#audience、#gapanalysis, #correlationなど約80個

目　次

設立に至るまで

序　文――21世紀における高等教育―― ……iii
ボブ・ケリー上院議員（訳：松下佳代）

まえがき …… xiii
ベン・ネルソン（訳：松下佳代）

第1部 私たちは何を教え、また、なぜそれを教えるのか …3
（訳：斎藤有吾）

設立意図

1　なぜ、新しい高等教育が必要なのか …… 6
スティーヴン・M・コスリン、ベン・ネルソン（訳：松下佳代）
解決すべき問題は何か …… 7
何を教えるか、なぜそれを教えるのか …… 10
どう教えるか …… 13
アメリカの国際的モデル …… 15
生涯にわたる経験 …… 18
結　論 …… 19
注　20
参考文献　20

教育目標

2　実践知 ……22
スティーヴン・M・コスリン（訳：飯尾　健）
カリキュラムにおける実践知 ……22
ミネルバの教育目標 ……25
4つのコア・コンピテンシー ……29
知の習慣と基本的概念を教える ……34

実践知を広く適用する ……47
結　論 ……49
謝　辞　50
注　50
参考文献　51

3　カリキュラムの根幹 ……54
ベン・ネルソン、スティーヴン・M・コスリン（訳：山田　勉）
基本原則 ……55
広い文脈と遠い転移 ……60
足場かけと体系性――ミネルバ・アプローチ―― ……63
結　論 ……67
参考文献　67

4　一般教育の新たな視点 ……69
ジョシュア・フォスト（訳：平山朋子）
ミネルバ・モデル ……69
他のアプローチとの比較 ……74
よくみられる課題に私たちはどう対処してきたか ……78
結　論 ……85
参考文献　86

5　「多モード・コミュニケーション」と効果的コミュニケーション ……87
ジュディス・C・ブラウン、カラ・ガードナー、ダニエル・J・レヴィティン（訳：田中孝平）
オープンマインドと丹念な読み ……89
書くことを通してコミュニケーションを教える新しい方法 …90
ボディランゲージと表情の役割 ……92
コミュニケーション・ツールとして芸術を教える ……93
解釈の先にあるもの――説得の技―― ……96
テクノロジーはコミュニケーションをどのように変えつつあるか …98
結　論 ……101
参考文献　101

6　「形式的分析」と批判的思考 ……104
ジョン・レヴィット、リチャード・ホルマン、レナ・レヴィット、エリック・ボナボー（訳：田中孝平）
論証を分析する ……105
記述統計と推測統計 ……109
効果的な意思決定 ……112
結　論 ……114
参考文献　114

7　「実証的分析」と創造的思考 ……115
メーガン・ガール、ヴィッキ・チャンドラー（訳：田中孝平）
「実証的分析」における創造性 ……115
自己主導型学習 ……116
問題解決 ……116
科学的方法 ……119
モデル ……120
バイアス ……120
研究デザイン ……122
科学的方法の疑わしい適用 ……123
総　合 ……124
結　論 ……125
参考文献　126

8　「複雑系」と効果的インタラクション ……127
ジェイムズ・ジェノン、イアン・ヴァン・バスカーク（訳：田中孝平）
複雑系とは何か ……128

カリキュラム・デザイン

一般教育（4つのコーナーストーン科目）

複雑系をどう教えるか …… 132
結　論 …… 137
謝　辞 138
参考文献 138

9　専攻と専門領域に対する新しい見方 …… 140
ヴィッキ・チャンドラー、スティーヴン・M・コスリン、
ジェイムズ・ジェノン（訳：斎藤有吾）
デザインの理論的根拠 …… 141
広さを提供する …… 142
深さを提供する …… 145
制約の中で作業する …… 149
学生の競争力を担保する …… 153
結　論 …… 154
注 154

第2部　私たちはどのように教えるか …… 155
（訳：斎藤有吾）

10　学習に向けてアンラーンすること …… 158
スティーヴン・M・コスリン、ロビン・B・ゴールドバーグ、
テリ・キャノン（訳：石田智敬）
教える内容に適応する …… 159
教える方法に適応する …… 162
伝える手段に適応する …… 165
結　論 …… 167
参考文献 168

11　学習の科学――その仕組みと原則―― …… 169
スティーヴン・M・コスリン（訳：石田智敬）
区別と目的 …… 171
格　率 …… 173
16の個別原則 …… 175
原則を活用する …… 183
結　論 …… 184
謝　辞 185
参考文献 185

12　フル・アクティブラーニング …… 188
ジョシュア・フォスト、レナ・レヴィット、スティーヴン・M・コスリン
（訳：瀧川幸加）
重要用語と関連する概念 …… 188
授業法のツール …… 192
テクノロジー・ツール …… 198
結　論 …… 202
参考文献 203

13　構造化された学習への新たなチームティーチング・
アプローチ …… 205
ジョシュア・フォスト、ヴィッキ・チャンドラー、カラ・ガードナー、
アリソン・ゲール（訳：岡田航平）
科目開発のプロセス …… 205
コミュニケーションの経路 …… 207
個人の強みを生かす …… 212
結　論 …… 219
参考文献 220

14　授業プランに基づいて教える …… 221
ヴィッキ・チャンドラー、スティーヴン・M・コスリン、
リチャード・ホルマン、ジェイムズ・ジェノン
（訳：岡村亮佑）
事前課題――アクティブラーニングの舞台を用意する―― …… 222

専門教育

学習の原則

コース・授業デザイン

学習成果と活動の学習目標 …… 223
アクティブラーニング・フォーラムで教える …… 226
学生を関与させる …… 228
結　論 …… 230
参考文献 232

15　アクティブラーニング・フォーラム …… 233
ジョナサン・カッツマン、マット・レーガン、アリ・ベーダー＝ナタル
（訳：澁川幸加）
アクティブラーニング・フォーラムを創造する …… 234
フル・アクティブラーニング――教員の隣に座る―― …… 235
重要なのはディスカッション、テクノロジーは舞台 …… 241
学生へのフィードバックのためのテクノロジー …… 248
結　論 …… 251
謝　辞 252
参考文献 252

16　21世紀のアクティブラーニングに向けて授業プランを構築する …… 254
アリ・ベーダー＝ナタル、ジョシュア・フォスト、
ジェイムズ・ジェノン（訳：岡村亮佑）
デザイン目標 …… 255
コースビルダーで可能なこと …… 256
コースビルダーで授業プランを作成する …… 268
カリキュラム主導型の開発 …… 271
結　論 …… 273
参考文献 274

17　学生の学習を評価する …… 275
レナ・レヴィット、アリ・ベーダー＝ナタル、ヴィッキ・チャンドラー
（訳：大野真理子）
学習成果を実施する …… 276
一貫性をもって評価を行う …… 277
文脈の中でフィードバックを提供する …… 279
意味のあるやり方で集約する …… 281
進捗を表示（および共有）する …… 285
外的尺度で補完する …… 286
結　論 …… 288
参考文献 289

第3部　新しい教育機関を創り出す …… 291
（訳：斎藤有吾）

18　新しいブランドを構築する …… 293
アヨ・セリグマン、ロビン・B・ゴールドバーグ（訳：小柳亜季）
ブランドを定義する …… 295
高等教育におけるブランドの価値 …… 296
名声のための基礎を築く …… 297
カテゴリーの中でのミネルバの位置を明確にする …… 297
対象となるオーディエンスを理解する …… 298
私たちのミッションと誓約を明確にする …… 299
私たちの本質を抽出する …… 300
私たちの指針原則を構築する …… 301
原則から実践へ …… 301
ブランドを表現する …… 303
結　論 …… 304
参考文献 305

EdTech

学習評価

ブランディング

広報

19　グローバル・アウトリーチ――新しいビジョンを伝える―― … 306
ケン・ロス、ロビン・B・ゴールドバーグ（訳：岡田航平）
戦略――募集ではなくアウトリーチであること―― …… 307
戦術――世界に普及するための効果的な方法―― …… 310
同じ志を持つ組織とのパートナーシップの活用 …… 315
単一のグローバルアプローチがすべてに適合するわけではない 316
学生以上の存在 …… 317
結　論 …… 318

入学者選抜

20　21世紀の入学者選抜プロセス …… 319
ニージーン・ホマイファー、ベン・ネルソン、
スティーヴン・M・コスリン（訳：大野真理子）
第一原理――目標と制約―― …… 319
入学者選抜プロセスをゼロからデザインする …… 321
異なる種類の選抜性 …… 324
入学者選抜プロセス …… 326
志願者を評価する …… 331
アルゴリズムによる採点 …… 333
経済支援 …… 334
結　論 …… 335
謝　辞　335
参考文献　336

21　多面的文化変容――コミュニティベースの没入型多文化教育―― … 338
ノリアン・カポラリ＝バーコウィッツ、ジェイムズ・ライダ
（訳：佐藤有理）
多様な学生コミュニティの形成 …… 339
文化を創造する …… 342
コミュニティプログラム …… 345
準正課活動と課外活動 …… 348
結　論 …… 349
参考文献　350

準正課・課外活動

22　経験学習――キャンパスとしての都市と人的ネットワーク―― …… 351
Z・マイク・ワン、ロビン・B・ゴールドバーグ（訳：杉山芳生）
なぜグローバル・ローテーションなのか …… 351
ミネルバはグローバルな理解と都市での没入経験に
どうアプローチするか …… 355
キャンパスとしての都市――ミネルバは経験学習にどう
アプローチするか―― …… 356
統合的学習――アカデミックな学習と経験学習の目標と成果を
整合させる―― …… 360
結　論 …… 361
参考文献　362

23　デザインされたグローバル・コミュニティ …… 363
Z・マイク・ワン、サルタナ・クリスピル（訳：佐藤有理）
創設――コミュニティの価値観―― …… 365
コミュニティの価値観を生きる …… 366
価値観についての個人とコミュニティの理解を育む …… 367
コミュニティプログラムと伝統 …… 371
グローバル・コミュニティを拡大する …… 374
結　論 …… 375

メンタルヘルス

24　多様性に富んだ21世紀の大学における
メンタルヘルスサービス …… 377
ジェイムズ・ライダ、ノリアン・カポラリ＝バーコウィッツ
（訳：田中孝平）
21世紀における大学のメンタルヘルスサービス …… 378
大学のメンタルヘルスにおける「ニューノーマル」 …… 379

結　論 …… 386
参考文献 387

25　ミネルバ専門能力開発部 …… 388
ロビン・B・ゴールドバーグ、アン・カウス（訳：岡田航平）
アドバイジングとコーチング …… 389
雇用者のネットワークと採用活動 …… 392
継続的な専門能力開発と支援 …… 397
結　論 …… 399
参考文献 400

26　アクレディテーション ――高等教育の新しいビジョンに対する公認―― 401
テリ・キャノン（訳：大野真理子）
高等教育を取り巻く環境とアクレディテーション …… 401
高等教育の課題への取り組みにおけるアクレディテーションの役割 …… 403
アクレディテーションへの道すじ …… 406
アクレディテーション・プロセスについての振り返り …… 412
参考文献 415

27　新たなビジネス・経営モデル …… 418
ベン・ネルソン（訳：小柳亜季）
なぜ従来の大学はこれほど経費がかかるのか …… 419
ミネルバの経営原則 …… 429
結　論 …… 433
参考文献 433

あとがき …… 435
ベン・ネルソン、スティーヴン・M・コスリン、ジョナサン・カッツマン、ロビン・B・ゴールドバーグ、テリ・キャノン
（訳：松下佳代）

付録A　知の習慣と基本的概念 …… 439
（訳：松下佳代）
Ⅰ．批判的思考 …… 440
Ⅱ．創造的思考 …… 445
Ⅲ．効果的コミュニケーション …… 447
Ⅳ．効果的インタラクション …… 449

付録B　ミッション、原則、実践について …… 452
（訳：岡田航平）
ミネルバの原則の確認 …… 452

編者・執筆者 …… 455
（訳：松下佳代）

訳者あとがき …… 467
（松下佳代）

人名・組織名索引 …… 473
事項索引 …… 475
訳者紹介 …… 486

キャリア支援

アクレディテーション（適格認定）

大学経営

ミネルバ大学で学生はどう学び、成長しているのか

コスリン, S. M., & ネルソン, B.（編）（2024）『ミネルバ大学の設計書』（松下佳代監訳）東信堂.

松下佳代（編）（近刊）『ミネルバ大学を解剖する』東信堂.